

第 61 回宮崎海岸市民談義所 議事要旨

日時：令和 8 年 1 月 24 日（土）13:30～16:00

場所：佐土原町商工会館 2 階集会室

参加者：

□市民：15 名

□宮崎海岸市民連携コーディネータ：

吉武教授（九州工業大学）

高田准教授（兵庫県立大学）

□宮崎海岸侵食対策検討委員会 技術分科会：

村上分科会長

□行政関係機関：

（国）宮崎河川国道事務所、宮崎海岸出張所、宮崎港湾・空港整備事務所

（県）河川課、港湾課、漁業管理課、宮崎土木事務所

（市）佐土原総合支所農林建設課、地域市民福祉課

実施内容：

宮崎河川国道事務所田脇副所長より開会の挨拶を行った後に、宮崎県河川課湯川主幹より国、県の担当者、他行政機関とコンサルタントの出席者の紹介を行い、その後、高田宮崎海岸市民連携コーディネータ（以下「コーディネータ」）の進行により談義が進められた。

コーディネータより今日の流れを説明し、「宮崎海岸の検討体制の確認」として、トライアングル、ステップアップサイクルによって事業が進められていく仕組み、談義所のルールについて説明した。

次に、事務局より、「市民談義所等の振り返り」として、宮崎海岸でこれまでに実施してきた侵食対策の概要や現状を説明し、コーディネータより前回の第 60 回市民談義所（R7.11 開催）のまとめを説明した。

続いて、「第 18 回技術分科会の報告」について事務局から説明し、技術分科会での意見・議論に対する質問や、今後、技術分科会に伝えてほしいこと、ききたいことなどについて、談義を行った。

最後に、「工事予定」として、養浜、1 基目の小突堤、大炊田の埋設護岸の工事について事務局から説明した。

※会議の開催前 1 時間程度で、従前より参加している市民と初参加の市民との知識のギャップを埋めるとともに、市民談義所への理解を深めるため、来場者の質問に回答する相談窓口を開設した。

1. 市民談義所等の振り返り

- ・質疑特になし

2. 第18回技術分科会の報告

- ・質疑特になし

～ 休憩 ～

3. 談義

※技術分科会での意見・議論に対する質問や、今後、技術分科会に伝えてほしいこと、ききたいことなどについて、挙手形式で談義を行った。

[参加者]

- ・市民談義所で出た意見で、技術分科会で検討されたものや、採用・反映されたものがあるのか、またそれはどれかを教えてほしい。

[コーディネータ]

- ・市民談義所で出た意見に対して、技術分科会等の専門家が1対1対応で検討しているものではないという前提がある。市民談義所で出た意見は伝えており、専門家は、その市民談義所での意見も踏まえて検討を進めている。自然の砂浜を残したいという思いは伝わっている。

[事務局]

- ・資料2p.15にこれまでの市民意見の一覧を整理しており、これは専門家にも共有している。例えば、この中で1基目の中突堤について、基部を仮設工ではなく確実に塞ぐ必要があるのではとの意見があるが、これについては、専門家からも同様の意見があり、背後の護岸と接続して設置することとなった。また、波の集中する箇所で不安であるという意見については、中突堤の設置と併せて中突堤の隣接域に養浜を実施することで対応する予定である。
- ・住吉エリアについて、目標を変えるのがいいのではないかという意見をいただいているが、現在考え方を検討中であり、今後、このような意見も踏まえつつ検討を進めていく予定である。
- ・石崎浜エリアについては、アカウミガメの産卵が多いところで砂浜が減らないようにという意見をいただいているが、今後の検討において配慮すべきことと考えている。

[参加者]

- ・資料2p.26既設突堤を延伸しないことを前提として、構造物を追加する検討のシミュレーションが進められている。当初計画では延長300mとなっていた突堤（現在の延長75m）はもう伸ばさないと決めて対策を進めるのか。突堤が伸ばせるように、漁業者との交渉を進めてほしい。突堤の延伸はあきらめいないが、50mの範囲で対策を考えるというのであれば納得はできる。

[事務局]

- ・突堤の延伸について協議・調整は今後も進めていくが、その間も侵食は進むので対策はしなければならない。資料2 p.26は、令和7年12月の技術分科会資料で示した住吉エリアの対策の検討結果である。これは、あくまで検討のスタートとして、砂浜がどのくらい残せそうなのかを検討したものであり、対策が決まったわけではない。

[コーディネータ]

- ・これまでの市民談義所での説明でも、突堤を伸ばせない中で対策を検討・実施していく必要があるということであった。このような状況の中での対策として、構造物はできるだけ少なくしたいという考え方で検討はされているが、新たな構造物をまったく入れなくても大丈夫という話ではなかった。
- ・また、動物園東エリアより北側のエリアは養浜と小突堤でやっていけそうだが、住吉エリアは養浜と小突堤による対策では、住吉エリア全域で目標とする浜幅50mを達成することは難しいということであった。

[参加者]

- ・いつのまにか、このまま「検討のスタート」と呼ばれる内容で対策が進むことになっていそうで危機感を持っている。

[コーディネータ]

- ・12月の技術分科会資料で示された住吉エリアの検討結果は、養浜と小突堤で色々と条件を変えて検討したが、やはり、住吉エリア全域で目標とする浜幅50mを達成することは難しいことがわかったということだと思う。

[参加者]

- ・資料の中で突堤の延伸をしないというのを断言しすぎではないか。
- ・また、住吉エリアで厳しいといわれている範囲（本突堤の北側）に、今40mくらい砂浜があることを事務局は把握されているか。本突堤の北側には今年度養浜していないと思う。構造物を入れなくても砂浜の回復はできるのではないかと思う。

[参加者]

- ・今砂浜はあるようだが、夏の砂浜はどうなのか。

[事務局]

- ・今砂浜があることは認識している。この冬の時期は、大小あるが砂浜がつきやすい時期である。一方、これまでの状況をみると、夏には今とは逆方向の突堤の南側に砂浜がつき、全体的に砂浜がなくなる可能性が高い。季節的に変化があると認識している。

[コーディネータ]

- ・これまでの市民談義所の説明の中でも、1年間の中で砂浜があつたりなつたりする時期があり、また波によっても砂浜は変化するなど、短期変動があるということであった。

[参加者]

- ・住吉エリアについて、近年少しづつではあるが全体的に砂がつきつつあると感じている。これはなぜだろうか。

[事務局]

- ・住吉エリアでは、近年、突堤周辺に川砂・川砂利養浜を実施しており、海中部にも養浜を実施している。この養浜の効果が出てきているのではないかと考えている。

[コーディネータ]

- ・測量等のモニタリング調査は実施されているようなので、今後の効果検証結果として出てくるのではないかと期待したい。

[参加者]

- ・住吉エリアについて提案したい。資料2 p. 28に住吉エリアのブロックとして、突堤間を南側からブロックA、B、Cと3ブロックに分けていたが、動物園東に近い最も北側のブロックC（新設する小突堤～補助突堤②の区間、護岸がブロックA、Bに比べて陸側に設置されているところ）の浜幅の基準を住吉エリアの基本として設定して、ブロックAとBの目標浜幅にしたらどうだろうか。そうすると、いまくらいの砂浜でいいということにならないか。

[コーディネータ]

- ・提案内容の主旨としては、今の砂浜ぐらいで良いのではないかということである。

[事務局]

- ・浜幅の定義があり、住吉エリアの場合は護岸の海側の法肩位置を基準として設定している。これまでの計画および検討においては、この位置で波が打ち上らないことが必要として考えている。
- ・提案は、住吉エリアについて、この浜幅の基準位置を変えられないのだろうかということになるが、今後、このような住吉エリアで目標とする浜幅の考え方等について議論・検討・調整していく必要があると考える。

[参加者]

- ・突堤を延伸してほしい。漁業者と交渉するために、しらす漁の実態を把握するなど、漁業者へのアプローチを変えてはどうか。

[事務局]

- ・しらすの生態については県が調査している。また、漁業者と話をすると、最近漁獲量は少なくなっている、長期的に減少傾向にあるようである。減少理由としては明確にわかっていないようだが、黒潮の影響も考えられているようである。また、個人的な興味から、しらす漁を沖合ですることは難しいのかという質問も漁業者にしたが、漁の安全性を考えると沖合で実施するのは難しいという回答であった。

[参加者]

- ・12月の技術分科会でシミュレーションによる検討をしているが、養浜材の質（粒径）を変えることで結果は変わらるのか。

[事務局]

- ・養浜材を中礫から川砂・川砂利に変えると、養浜材が動きやすくなるため、若干汀線は後退するが、大きな傾向の変化はない。

[参加者]

- ・養浜材として想定されている川砂・川砂利は粒径が大きいと思うが、宮崎海岸全体に入れるのか。砂利のような粒径の大きなものは、コンクリートと同様にアカウミガメの産卵や孵化に影響が生じる可能性がある。

[事務局]

- ・現時点の検討では、川砂・川砂利による養浜は住吉エリアへの投入を想定しているが、確定はしていない。今後検討していく。

[参加者]

- ・本突堤と補助突堤①の間の砂のつき方が、近年で一番ついている。今後の養浜実施の参考となるため、しっかり検証してほしい。また、補助突堤①北側の養浜方法が、天端が高いが、なぜあのような形なのか。根拠が必要なのではないか。また、補助突堤①基部周辺にある巨石を撤去してほしい。

[事務局]

- ・養浜の効果について、測量等のモニタリング結果から検証していく。
- ・補助突堤①北側の養浜形状については、今年度台風等による高波が少なく、養浜材が海域に供給されにくかったため、結果としてあのような形になっている。養浜形状の配慮の必要性があれば検討していく。
- ・巨石の撤去については、今後、住吉の対策を検討していく中で撤去・活用等も含め対応を検討していく。

[参加者]

- ・養浜の盛土の中に、タイヤ、ビニール、ペットボトル等の産廃やゴミが多く混じっている。砂浜にゴミが流出し、拾っても拾っても追いつかない。フィルタリングして土砂だけを投入するようにしてほしい。

[事務局]

- ・土砂の受け入れ時にゴミ等の混入がないよう、しっかりと管理していく。

[委員]

- ・砂浜が戻ってきてているという皆さんの実感を聞くことができてよかったです。これは、海中部も含めた養浜の効果と考えられる。ただし、宮崎海岸では現在相当

な量の養浜を入れており、養浜の投入量を減らすと元に戻ってしまう。県への移管後もこの量の養浜が継続してできるとは限らないため、県への移管後も見据えて、どのような対策が必要かについて、皆さん 의견も踏まえながら、今後検討を進めていく必要がある。

4. 工事予定

5. スケジュール

[事務局]

- ・2月に技術分科会、効果検証分科会の開催を予定している。次の市民談義所の開催は3月を予定している。その後に委員会の開催も予定している。
- ・また、海岸出張所のリニューアルを予定している。アイデア募集中のため、ぜひ参画していただきたい。
- ・アンケート用紙の見直しを行っている。意見の記入もぜひお願いしたい。

～コーディネータのまとめ～

[コーディネータ]

- ・今回の市民談義所では、12月に開催された技術分科会の議論内容を丁寧に説明してもらい共有した。
- ・市民意見がどのように技術分科会の議論の中で反映されているのかということは気になるところで、市民意見に対して専門家が1対1で検討しているわけではないということは説明して共有したが、今後も談義所の中で、市民意見がどのような形で反映されているのかを共有していく必要はあると感じた。
- ・専門家である委員は、市民の意見も気にしながら丁寧に検討してくれているので、委員に市民の意見を直接聞いてもらう機会があることも重要と感じた。
- ・シミュレーションの結果などの検討結果を、わかりやすい形で情報共有することによって、今後の具体的な対策の検討に向けた話ができると感じた。住吉エリアの浜幅の考え方やどのように護っていくのかについての市民から提案もあったことは大きな成果である。
- ・今後の対策を考える上では、県への移管後や気候変動も踏まえた長期的な環境変化を共有しながら進めることが重要であるがイメージしにくいため、きっちりと共有しながら進めていくことが必要と感じた。

[事務局]

- ・平成27年3月に策定した「日向灘沿岸海岸保全基本計画」について、気候変動の影響を踏まえた内容に変更するにあたり、今回、変更原案に対するパブリックコメントを募集中である（令和8年2月9日まで）。ホームページのほか、県庁や県土木事務所、市役所でも閲覧できるので、ご確認いただきご意見あればいただきたい

以上